

特定非営利活動法人びーのびーの 2019 年度事業報告書

2019年4月1日～2020年3月31日

第1 1年を振り返って

平成から令和を迎え、認定 NPO 法人取得から2年目、寄付者100人の PST（パブリックサポートテスト）基準を早々に達成。

小規模保育事業ちいさなたね保育園が隣地を活用し認可保育園に移行する大きな判断を行った。小規模保育事業が10年間限定での運営が約束されている中、5年目での移行は、園の現場はもとより、横浜市、港北区の移行意図の理解を得ながら進めた。最終的には自主整備による園舎建設となり、数々の協力者からの後方支援を経て、無事4月1日開所の実現を果たすことができた。

港北区地域子育て支援拠点どろっぴは、5年に1回の公募選定期間にあたり、第4期20年目を目指しての受託が正式に決まった1年でもあった。

法人独自の広報発信、企業連携などを進めている地域 remix（旧企画室）は子育て真っ最中の当事者スタッフの関わりが増え、かながわボランティア活動推進基金21助成事業 人材育成 仕事と子育て両立体験研修事業「家族シュミレーション」による夫婦子育て家庭のワークライフバランスを応援する仕組みの提案により、多くの企業との連携を深められた年となった。その成果をもとに1月末にはセミナー「企業と創る地域社会子育てにやさしい社会」（公財）損保ジャパン日本興亜福祉財団 「NPO基盤強化資金助成事業」を区内にて開催。法人を取り巻く企業関係者、行政職員、研究者や学生などの多様な立場の参加者によって今後の NPO と企業との協働協業のあり方を提案できるものになった。法人としても初の取組みとなる大手ディベロッパーが建設中の大規模マンション内地域貢献施設で、新住民になる子育て家庭との繋ぎ役を果たす活動がスタートしている。

おやこの広場びーのびーのでの一時預かり事業はもとより、預かり保育まんまーの預かり、港北区地域子育て支援拠点どろっぴの機能の1つとして、子育てサポートシステムによる預かりのコーディネートや、独自で区と協働で試行している当日預かりも可能な「ひととき預かり」など、ひろば機能と連動した柔軟な預かりの実現に向けて動き出している。

年度末は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、新年度への計画に大きな影響を及ぼすことになったが、法人 ONE TEAM で実績を積み上げ、20周年にむけての布石となる1年だった。

第2 事業内容

1. 子育て支援施設の運営

① 「おやこの広場びーのびーの（菊名ひろば）」

（横浜市子ども青少年局委託事業 親と子のつどいの広場事業）

(1) 基本データ

① 対象	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者
② 実施場所	横浜市港北区篠原北1-2-18
③ 開催日時	月曜～金曜 9:30～15:30 第3水曜 12:00～15:30 奇数月第3土曜 10:00～12:00 マタニティソーイング 奇数月第3土曜 12:30～15:30 土曜ひろば
④ 従業員数	9名
⑤ 事業概要	<ul style="list-style-type: none">・子育て親子の交流、集いの場の提供・産前から産後への切れ目のない支援・子育てに関する相談の実施・地域子育て関連情報の収集及び提供・子育て及び子育て支援に関する講習の実施・一時預かりの実施

(2) 報告

1) 共に育ちあい育てあうひろば

会員同士、信頼関係を結び、声をかけあいながら子ども達の成長を共に見守り合う、緩やかなひろばの雰囲気作りができた。ボランティアと共に定期的にイベントを開催し、利用者との交流を図った会員同士、信頼関係を結び、声をかけあいながら子ども達の成長を共に見守り合う、緩やかなひろばの雰囲気作りができた。土曜ひろばを年6回実施。ブログ・Facebookの定期的な更新。広報紙『びーのびーの通信』発行。

2) 当事者性を大切に

ひろばの様子などを気楽に話せる会を月1回行い、親子が今興味のあることを実現できるようサポートした。今の子育て事情や感覚を知れるよう、親子に寄り添い、きめ細やかなニーズを拾い、安心して楽しく過ごせる場所を目指した。

3) 座談会

0才児親子向けの座談会『赤ちゃんのママ集まれ』を年9回実施。利用者の声を聞き、今話したいテーマでの座談会を実施。(おむつはずれ・離乳食、歯の健康講座など) エッセンスをまとめて、参加できなかった親子にも、後日ひろばで紹介。広報誌にも掲載した。

4) 産前から産後への切れ目のない支援

地域の両親教室にひろばスタッフとして参加し顔を知ってもらうことで、産後のひろば利用につながった。妊娠期プログラム(マタニティソーイング: スタイ作り)を奇数月の土曜日に年6回実施した。

5) ひろばと地域を結び

毎月、篠原町ねむの木公園へ出かけて外遊び。ひろばと地域がつながり、親子がいつでも安心して遊べる環境・関係づくりを目指した。

『地域活動連絡会』を開き、地域との交流も含め、ひろばの活動報告と今後の展望を伝え合うことで連携の強化を図った。

6) 一時預かり

一時預かり専任スタッフと共に、安定したスタッフ体制を組みひろばらしい一時預かりが行えるようにした。

② 港北区地域子育て支援拠点どろっぴ

(港北区地域子育て支援拠点委託事業)

(1) 基本データ

	どろっぴ	どろっぴサテライト
① 対象	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者	
② 実施場所	横浜市港北区大倉山3-57-3	横浜市港北区綱島東3-1-7
③ 開催日時	火曜~土曜 9:30~16:00 (祝日と年末年始及び特別休館日を除く)	
④ 従業員数	18名	10名
⑤ 事業概要	・親子の居場所 ・子育て相談	・利用者支援事業
	・子育てサポートシステム ・利用者支援事業 ・人材育成 ・ネットワーク ・情報収集、提供	

(2) 報告

1) 横浜市18区の拠点事業と共に研究機関、横浜市と協働で全区一斉に3歳児健診調査において、拠点事業利用後の親の志向性調査が実施できた。回答率は81%であったが、拠点やひろばを利用した家庭と未利用家庭との親側の社会性発達の高まりについて著しい成果が見出せた。

2) 2拠点で拠点併設型の一時預かり事業の実現をめざして、独自に試行版として、子育てサポートシステムの制度利用をしながら「ひととき預かり」を実施した。ひろばサポーターを常置しつつ、当日預かりを可能にする柔軟な預かり活動を行った結果、緊急の通院や体力回復等レスパイトしても予防的効果が実証された。

3) ココアプリの区民全体の認知度調査が75%を超え、アクセス数も着実に伸びた。投稿フォーム、編集会議のあり方なども改変しながら、より充実した子育て情報の発信に繋がった。

4) 地域版両親教室の開催が2年目に入り、区内6ひろばや助産師会、地域ケアプラザ、区母子保健CO.などの多職種連携により、多くの妊娠期家庭に周知され、講座の質が高まるとともに量的拡大に繋がった。

- 5) 区内の中学校単位で地域と協働してきた「ふれあい体験事業」の取組や実践について、教職員、地域支援者、行政、拠点との4者で、その意義や課題、今後の可能性等を共有し、可視化したリーフレットを作成した。この取組が福祉と教育の具体的な連携事例となることをリーフレットの普及とともに、推し進めていきたい。
- 6) 特に、男性のシニアボランティアが増えたが、それぞれの人生を充実させるために子育て支援を選択してくれたことに感謝するとともに、得意なことに関われる機会を創ることができた。

2. 子育て支援に関する事業

① 預かり保育「まんまーる」

(1) 基本データ

① 対象	おおむね2～3歳（各曜日:8名、一時預かり:各日2名）
② 実施場所	横浜市港北区大倉山3-3-3 磯部マンション205
③ 開催日時	月曜～金曜 9:30～13:00
④ 従業員数	7名
⑤ 事業概要	幼稚園・保育園に入園前の子ども（2歳・3歳）を対象としたグループ保育。登録制。

(2) 報告

- 1) 初めて親から離れて過ごす子ども達の気持ちと、保護者の不安な気持ちを受け止め、安心して過ごせるよう、新スタッフ2名含め全スタッフ連携を取りながら保育にあたった。
- 2) 保護者同士がつながりを持ち、共に支え合いながら地域での子育てが楽しめるよう、早い段階でお互いを知る機会を多く設けた。例年に比べて保護者同士の関わりが多かったように感じる。
元まんまーるOBの会『ままーる』より3名が2020年度お散歩サポーターを引き受けてくださった。昨年引き続き、利用者からスタッフ側へと嬉しい循環が生まれてきている。
- 3) グループ保育後の延長保育や緊急時の預かり・職業復帰のための準備や就学などへの支援を行った。
一時預かりの利用者：月平均6名。延長保育の利用者：月平均12名/利用時間：月平均9.2H。
- 4) 2週間事業が縮小したが、法人内の他事業（拠点）との連携により、2019年度最後のしめくくりの場を設けることができた。共通の利用者の情報の共有があり、スタッフ研修や実習にて学ばせてもらう機会となった。

② 産前産後ヘルパー派遣事業（横浜市産前産後ヘルパー派遣事業）

(1) 基本データ

① 対象	横浜市内に住民登録をしている世帯で次のいずれかに該当する世帯 （1）妊娠中で、心身の不調等により子どもの養育に支障があり、かつ、日中家事又は育児を行う者が他にいないため、支援が必要な世帯。 （2）出産後5か月（多胎児の場合は出産後1年）未満で、日中家事又は育児を行う者がほかにいないため、支援が必要な世帯。
② 実施場所	派遣対象家庭
③ 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:00（12/29～1/3・祝日は除く）
④ 従業員数	5名
⑤ 概要	対象世帯に対して、横浜市が委託した事業者からヘルパーを派遣する。

(2) 報告

- 1) 昨年度から事業の立ち上げに向けて他事業所と情報共有を行い、マニュアルなど開始準備を整え事業の基本構築を行ってきた。開始後、実際事業を行いながら必要に応じて変更を行った。
- 2) ヘルパー登録者も同法人内子育てサポートシステムで提供会員に募集を投げかけたこともあり、30人以上の登録があった。
- 3) ヘルパー登録者が皆ヘルパー活動として未経験であった為、開始時オリエンテーションを行いマニュアルや心構えを講義として取り入れ、不安軽減に繋げた。
- 4) 実働としては家庭での個別支援になる為、ヘルパー経験があるスタッフ一人ひとり同行して丁寧な導入を行った。
- 5) 活動後も報告連絡を受けることで、利用者の状況・活動の内容を把握するとともに、ヘルパーが精神的な負担をかけないように気持ちの共有を行いフォローした。

- 6) 利用希望の方には問い合わせの連絡で、利用可能である事を明確に伝え安心に繋がるとともに、出産や育児に対する不安も事前に軽減できるように傾聴を行った。
- 7) 利用希望者には対象エリア以外や休日利用希望・きょうだい児送希望を除き、全て受け入れを行った。やむを得ず断る場合も他事業者や他サービスの情報提供を行った。
- 8) 利用者が利用期間中や終了後に母親が休養やリフレッシュ・用事などで支援を必要とする場合、産前産後ヘルパー事業では対応できない子どもの預かりが可能な子育てサポートシステムでの対応を紹介した。産前産後ヘルパーが提供会員である場合も多く、必要な支援の内容によって適したサービスで対応できるようにした。

3. 子育てに関する地域の情報発信

(1) 基本データ

① 対象	子育て世帯
② 実施場所	横浜市港北区大倉山 2-7-47 シャトレ大倉山 103
③ 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30
④ 従業員数	6名
⑤ 事業概要	<p>1) 情報リミックス 出版・制作・企画事業 (ア)「びーのびーの幼稚園・認定こども園・保育園ガイド」の制作・販売 (イ) 制作・企画 各種制作(チラシ、冊子、パンフレットなど)、イベント実施、港北区子育て応援マップ紙版ココマップ (ウ) インターネット事業 港北区子育て応援マップ「ココマップ」(ウェブサイト)の編集・制作・運営(横浜市港北区社会福祉協議会委託事業)、トレッサ横浜HP内「とれおんパーク」ブログ記事制作(トレッサ横浜委託事業)、HP制作 (エ) 書籍販売</p> <p>2) 企業リミックス 企業から持ち込まれる協働、共創の案件や、2018年度から実施している家族シミュレーション事業など企業への提案、協働しての取り組み</p> <p>3) 人材リミックス 人材発掘・スキルアップに関するを行う。</p> <p>4) 信頼リミックス 任意団体・学会等の事務請負・コンサルティング事業 (ア) 子どもと保育総合研究所事務局 (イ) 子育てタクシー (ウ) 子どもと家族支援研究センター事務局 (エ) 国際校庭園庭連合日本支部事務局</p>

(2) 報告

1) 情報リミックス 出版・制作・企画事業

当事者や多様な立場の人とつくる継続的な活動への場づくりとして以下を制作

- (ア)『びーのびーのガイド幼稚園・認定こども園・保育園ガイド 2021年入園版』制作にあたり、kintoneで園とのやりとり、ガイドサポートメンバーによる入力・校正のやりとり、制作状況などを管理することにより、リアルタイムで情報の共有を行なうことができた。特に年度末リモート勤務になったときにはとても有益であった。
- (イ)・港北区子育て応援マップ紙版ココマップ制作において、子育て中のママの意見を取り入れ、ニーズに合ったものを制作。(2020年9月発行予定)
 - ・にっぽん子ども・子育て応援団 地域まるごとケアプロジェクト報告書
 - ・大学各種テキスト、リーフレット、チラシなど制作。
 - ・7月に『びーのびーの幼稚園・認定こども園・保育園ガイド』20号発行記念イベント“「無償化×園選びの方程式」ずっと大事にしたい こどもの育つ環境づくり”を行なった。第1部で大豆生田啓友教授とちいさなたね保育園園長との対談、第2部で横浜市子ども青少年局保育教育運営課幼児教育・保育無償化担当課長古石氏による『幼児教育・保育無償化について』の説明、大豆生田教授とアンガールズ山根良顕氏との対談及び子育て中のママ・パパを交えたトークに200名の参加者が参加。
 - ・トレッサ横浜主催の親子向けイベントにおいてはトレッサ横浜内テナントとコラボ企画を行なうことにより、イベント来場者をテナント利用につなげることができた。また、港北区地域子育て支援拠点及び鶴見区地域子育て支援拠点の横浜子育てパートナーとの連携により、普段相談機能を利用する機会のない当事者が気軽に相談できる機会をつくることができた。
 - ・横浜市幼稚園協会都筑支部主催イベントなどの企画・運営を行なった。

- (ウ)・港北区子育て応援マップ「ココマップ」(ウェブサイト)においては、毎月の編集会議で活発な意見交換を行った。特に特集記事制作においては会議で何度も議論を重ねるだけでなく、子育て中のママ・パパにヒヤリングを行うことにより、当事者の必要としている内容の記事をつくることができた。
- ・トレッサブログ「とれおんパーク」の記事作成において、子育て中のママが主催イベントやテナント取材して紹介することにより、当事者目線の記事を発信し、トレッサ横浜様に評価していただいた。
- ・各種情報発信ツール (Facebook、ブログ、LINE@) を毎日のように利用することにより、法人の活動を紹介した。
- (エ)・ネット販売により港北区に転入する方だけでなく、近隣の方も『びーのびーのガイド幼稚園・認定こども園・保育園ガイド』を気軽に購入でき、100冊以上を販売した。

2) 企業リミックス

- ・1月に来場者総数160名のセミナー『企業と創る地域社会子育てにやさしい社会』を開催。第1部では6つの企業によるこれまでの当法人と企業とのさまざまな子育て支援に関わる協業実践事例について、企業側の立場からのお話を伺い、第2部では企業・関係機関の方々とスタッフとの交流会を開催し、学ぶことの多い場となった。
- ・野村不動産株式会社が日吉地区につくっているプラウドシティ日吉内におけるエリアマネジメントにコアパートナーとして参画。地域貢献施設内の子育て支援スペース「COCOひよし」を運営することになり、日吉地区で地域の方が交流できる場をつくる準備を行なった。また、マンション販売ギャラリーにおいて、購入者向けに地域情報コンシェルジュとして個別に地域や子育ての相談を受けたり、保育園入園や学童期などのセミナーを行なった。

3) 人材リミックス

- ・子育て中のママたちが積極的に活動できる場を提供。チラシやHP制作、ガイド制作、ココマップ編集メンバーとして社会貢献の機会を持つことができた。特に制作においては、フリーランスのクリエイターが個々の特性を發揮し、さまざまな成果物を生み出すことができた。
- ・港福一夜城を4回開催。異業種を意識して活動が広がっている。福祉側から企業へのアプローチの可能性の事例にもなった。<https://kikaku1.wixsite.com/koufuku>
- ・実習生やボランティア学生のコーディネートを積極的に行ない、年間200名近い学生が親子と関わる機会をつくることができた。

4) 信頼リミックス

- ・新たに国際校庭園庭連合日本支部の事務局業務を行なうことになり、これまで取り組んできた子どもと保育総合研究所事務局業務で培ったスキルを活かして活動を行なった。
- ・子どもと保育総合研究所実践研究会夏季全国大会ではこれまでで最も多い500名の参加者を受け入れた。会員管理とセミナー受付業務を円滑に行うため、キャスレーコンサルティングと契約しkintoneによる会員管理を導入し、スムーズにセミナー受付業務を行なうことができるようになった。

4. 子育てに関するセミナー・イベント・調査等の企画実施

(1) 基本データ

① 対象	子育て世帯
② 実施場所	横浜市港北区大倉山 2-7-47 シャトレ大倉山 103
③ 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30
④ 従業員数	6名
⑤ 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・取材、見学対応 ・外部講演会講師、原稿作成依頼等 ・外部委員会出席等 ・びーのびーの通信 ・絵本の会 ・助成金・企画事業

(2) 報告

1) 取材、見学対応

法人が運営する子育て支援施設（おやこの広場びーのびーの、港北区地域子育て支援拠点どろっぴ）、地域福祉・交流スペース（COCO しのはら）、預かり保育「まんまーる」で施設見学、説明を行い、事業の啓発・情報交換の場とすることができた。また、実践者のための実務体験の場として活用されている。

2) 外部講演会講師、原稿作成依頼等

保育子育てオープンイノベーション勉強会 講師/多摩市立子育て総合センターたまっこ向け研修「地域子育て支援の現状と課題」講師/西東京市「利用者支援事業について」講師/子ども子育て支援事業計画普及フォーラム 学生インターン登壇/神奈川県生涯現役促進協議会保育補助者養成講習 講師/川崎市高津区認可保育所子育て支援講座 講師/横浜市地域子育て支援フォーラム「これからの親子の居場所について考えるフォーラム」登壇/富山県保育連絡協議会「子どもの育ちを支える子育て支援フォーラム」 登壇 等

3) 外部委員会出席等

内閣府 子ども・子育て会議、内閣府 地方創生×少子化対策委員会/第4次少子化社会対策大綱策定のための検討会委員/厚生労働省 成育医療等協議会委員/厚生労働省「健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）」評価委員会委員/国土交通省 社会資本整備審議会住宅地分科会/国土交通省 子育てにやさしい移動に関する協議会/文部科学省 「教育と福祉の連携による家庭教育支援事業」事業選定・評価委員、神奈川県協働推進協議会/かながわ協働推進協議会 条例検討部会/横浜市社会教育会委員/港北区「ひっとプラン港北」策定・推進委員会 委員/港北区 ボランティアセンター運営委員会/住友生命 未来を強くする子育てプロジェクト実行委員会/年賀寄附金委員評価委員/ヨコハマアートサイト 2019 選考委員会/横浜市バリアフリー検討協議会/港北区社会福祉協議会 評議員/神奈川県立 港北高校 学校評議員/横浜市立大曾根小学校 学校運営協議会委員会 等。

4) びーのびーの通信

年9回(通常号6回、合併号3回)発行。毎号法人各事業のお知らせ等をバランスよく配置。おやこの広場びーのびーの利用者のイラストを積極的に活用しての紙面づくりが行われた。広告18枠中17枠を獲得。広告媒体としての認知度も高まった。

5) 絵本の会

おやこの広場びーのびーので活動（おはなし会/隔月・バザー参加）。「びーのびーの通信」に絵本紹介執筆。定例会を実施（7月）。ズーラシア・日吉吉日楽校よりオファーを受けておはなし会実施。

6) 助成金・企画事業

(ア) ～みんなで夕食の会～『たべ～る“ば”大倉山』（横浜市社会福祉協議会よこはま ふれあい助成金事業）

- ・どろっぴプログラム「のびのび月曜日」の参加者を中心に学童期に入り、様々な理由でライフスタイルの変化に孤独感や困難さを感じている家庭を対象とする。年12回開催予定としていたが、新型コロナウイルスの影響があり11回の開催となった。3月に予定していた「おやこの広場びーのびーの」での開催も見送らざるを得なかった。
- ・参加家庭はAグループ9、Bグループ7の16家庭のほか、どろっぴスタッフからの声かけで、プラス数家庭が参加。昨年度までのグループ分けをシャッフルして新しいグループ分けを行った。形態としては、隔月1回開催。年2回は両グループ合同開催とし、2月には柴田愛子先生を招き語り合う場を設けた。毎回、ファシリテーター同席のもと、グループ分けをしたにも関わらず、メンバーは打ち解けて話をし、子ども同士の関係性もできてきている。また、安心感があるのか、子どもだけ先に来て遊ぶ様子も多く見られた。
- ・ボランティアも固定で入ってくれる6名前後にプラスして、12名前後が関わってくれている。地域にお住いのシニア男性も2月に初めて参加してくれたが、残念なことに会自体が流れてしまったので、来年度も積極的に声かけをして「地域」とのつながりを考えていきたい。また、様々な理由により、今年度は「シングルで子育てをしている」家庭に特化した場を設けきれなかった。

(イ) 人材育成 子育てと仕事両立体験研修事業「家族シミュレーション」

(平成30年度 かながわボランティア活動推進基金基金21 活動補助金事業からの継続)

- ・学生・社会人を対象に第三者の家庭での育児体験を実施し、子どもに触れた体験がその後の家族観、就労意識などに及ぼす変化を研究し、若者の育児体験活動が、新たな子育て支援施策となる事業の開発を目指す事業。
- ・就労している20代～30代未婚社会人4社・17名が就業後の時間を利用して当法人の利用者家庭と9月から10月にのべ20回の育児体験プログラムに参加した。プログラムは「おやこの広場びーのびーの(菊名)」、「預かり保育まんまーる(大倉山)」、利用家庭自宅で開催した。

- ・事業実施にあたり、有識者によるアドバイザー会議は、オンライン会議も活用し、6回実施した。今年度は、アドバイザーの紹介によって、神奈川県情報サービス産業協会に加盟する企業経営者への事業説明の実施、信用金庫関係者による全国的な展示イベント（よいお仕事しフェア・東京国際フォーラム）への参加など事業紹介の機会をいただくことができた。事業ノウハウを活用した企業内研修を1社実施することができた。

5. 保育事業の運営

小規模保育事業 ちいさなたね保育園

(1) 基本データ

① 対象	生後57日から2歳児
② 実施場所	横浜市港北区師岡町824 第一ネッキビル
③ 開所日時	月曜～土曜 7時30分～18時30分
④ 従業員数	13名
⑤ 事業概要	「小規模保育事業A型」 定員19名

(2) 報告

1) 3歳から小学校までの継続した保育の計画

- ・バオバブ保育園、埼玉わらしべ保育園、熊本さくらんぼ保育園、福岡やまのこ保育園、グローバルキッズ 亀戸園見学。目指す方向性を確認するため、他園の見学をし、話し合い来年度を見通した環境に改善。
- ・幼児キャリアアップ研修。幼児の研修にも市に依頼して参加。

2) 乳児保育、少人数保育、異年齢保育について深め、まとめる

- ・書籍「ていねいな保育」に掲載される。
小規模事業保育園の見学を受け入れ、説明することで、深め、まとめることができた。

3) 引き続き手を取り合う保育

- ・Afternoon Tane は「ややこしや」「普通の保育をのぞいたら」など、特に普通の異年齢での生活のビデオは参加者が多かった
- ・認可移行に向けてのプロジェクト
10月から週1回リーダー会議開催。2月から新年度に向けての担当者会議を週1回開催。新型コロナウイルスの対応で2月下旬から対策会議中心になる。

6. 地域福祉・交流に関する事業

地域福祉・交流スペース COCO しのはら

(1) 基本データ

① 対象	子どもから高齢者まで
② 実施場所	横浜市港北区篠原町1077
③ 開催日時	月曜～金曜 9:30～15:00
④ 従業員数	8名
⑤ 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業通所型の実施 ・食事を通じた交流づくり ・日常的な多世代交流の場 ・未就園児のグループ預かり ・趣味の講座や得意なことを活かせる活動スペース ・地域連携及びネットワークの強化

(2) 報告

- 1) 地域の中で、世代を問わず様々な人が出会い・交流・活動ができる「みんなの居場所」を目指し、ボランティア主体で誰にでも出番があり活躍できる場をつくる。講座やプレミアムナイト（YS市庭コミュニティ財団助成事業）を通して地域の方が講師として活動している。

夏休みに小学生対象の「しのはら地域子ども塾」（国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金助成活動）を開催。また、「食」を主としたCOCOしのカレッジでは、子どもから大人まで一緒に料理を作りテーブルを囲んで食べることで世代間の交流が深まった。

3ヶ月に一度、利用者を中心に手作り品を出店する「COCOマルシェ」を行い、好評であった。

- 2) 畑作りや庭の手入れを通して新しい出会いが生まれ、多世代が集まれるしかけをつくった。ランチ・カフェはスペシャルランチや茶話会プランなど新しい試みを行い、新しい利用者の獲得につながった。
- 3) さまざまな役割を担うことで、誰もがその人らしくいきいきと過ごすと同時に、健康づくりや介護予防プログラム取り入れる。横浜市介護予防・日常生活支援総合事業の助成から2年半経過。
篠原地域ケアプラザと連携し、地域連絡会も開催した。
料理や配膳、片付け、利用者との会話、お庭整備など地域の方が無理なく活躍することができた。
脳トレ健康麻雀は利用者の中から有志が集まり、継続的に行われた。
- 4) 多世代で入園前の子どもたちを見守る。
COCO まーの季節行事などに地域の方が参加、協力により、子どもにとってより豊かな経験となった。また、これをきっかけに、お互いの距離が縮まった。

7. 上記の事業を行うために必要な一切の活動

(1) 基本データ

① 実施場所	横浜市港北区大倉山 2-7-47 シャトレ大倉山 103
② 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30
③ 従業員数	5名
④ 事業概要	法人運営に関わる一切の会議開催 法人内部研修開催 会員登録、寄付金協力の手続き及び管理

(2) 報告

- 1) 法人運営に関わる一切の会議開催
理事会（年3回） 全体会（年2回）
運営連絡会・会計チェック（毎月開催）
会計チェック 毎月開催
- 2) 法人内部研修開催
初任者研修
法人全体研修
- 3) 会員登録、寄付金協力の手続き及び管理
会員登録手続き及び管理（メーリングリスト等による法人情報の発信）
指定NPO法人及び特定非営利活動促進第44条第1項に規定する認定特定非営利活動法人として必要な
手続き及び管理業務（寄付金協力者の管理、寄付金受領書の発行手続き）